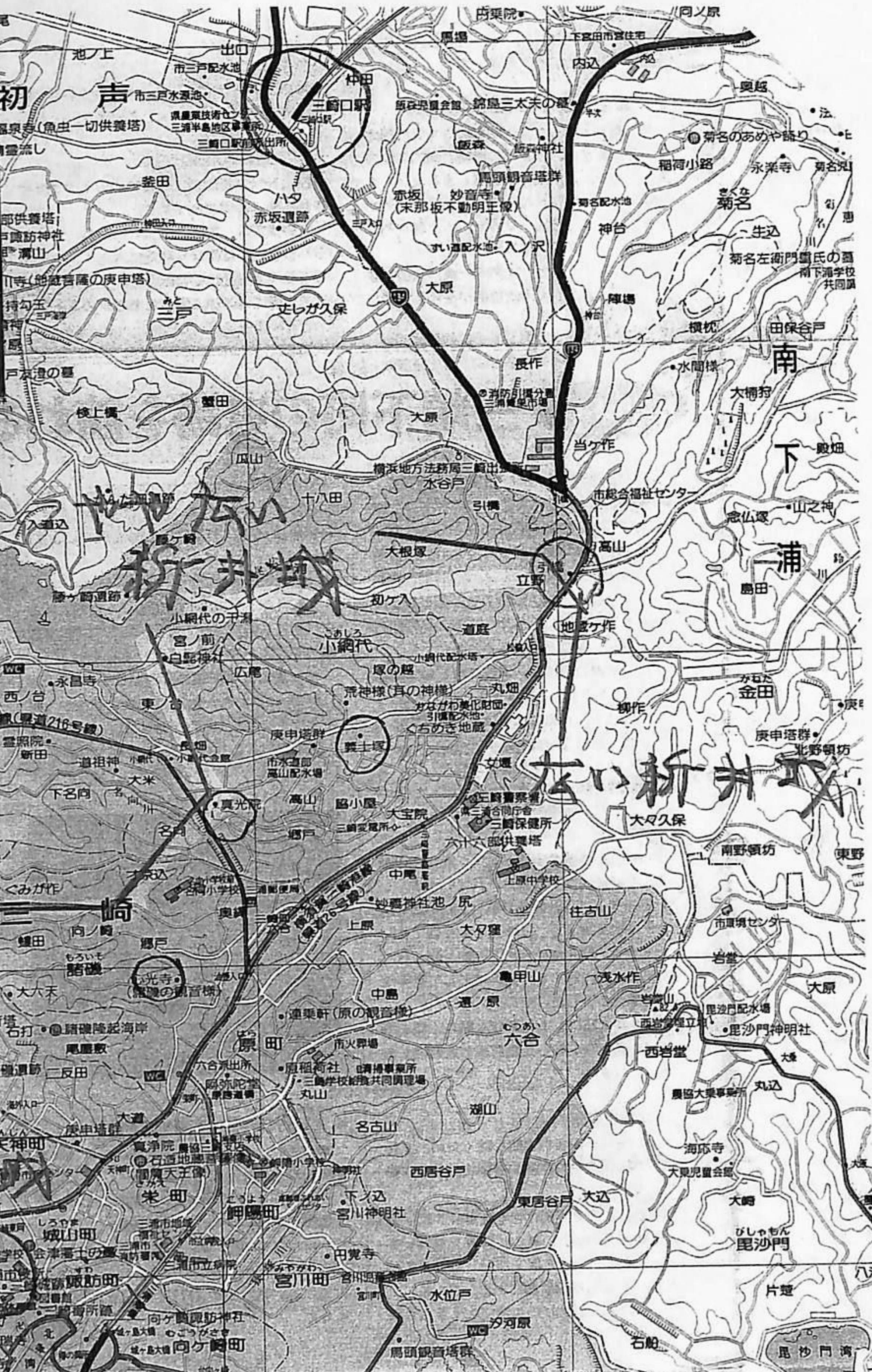


# 城を歩く会 4月定例会「春の三浦半島、新井城と三崎城」

ご案内資料 ①新井城を歩く 山岸弘明 平成 23-4-20



三浦道寸義同肖像画

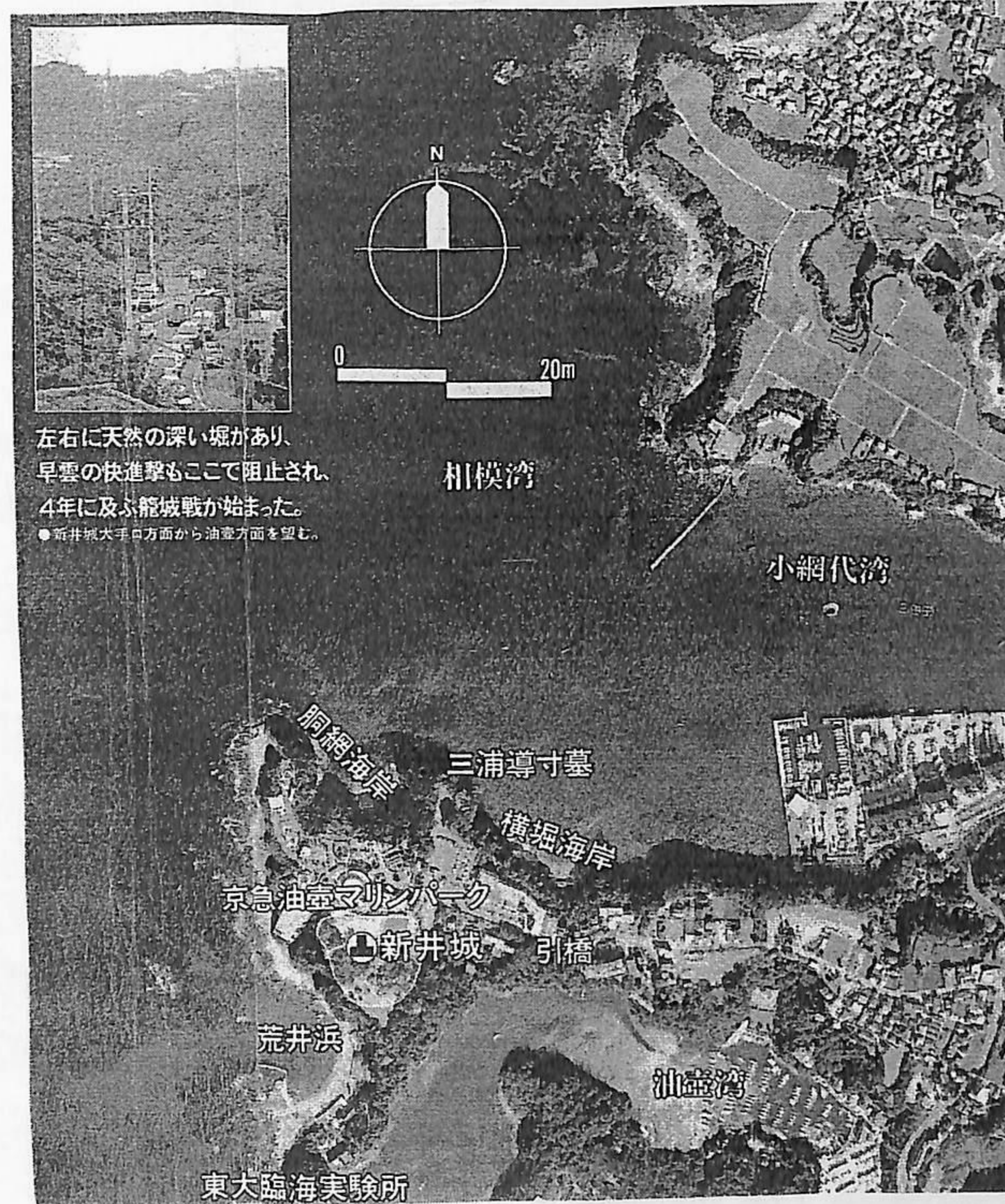


三浦荒次郎義経肖像画

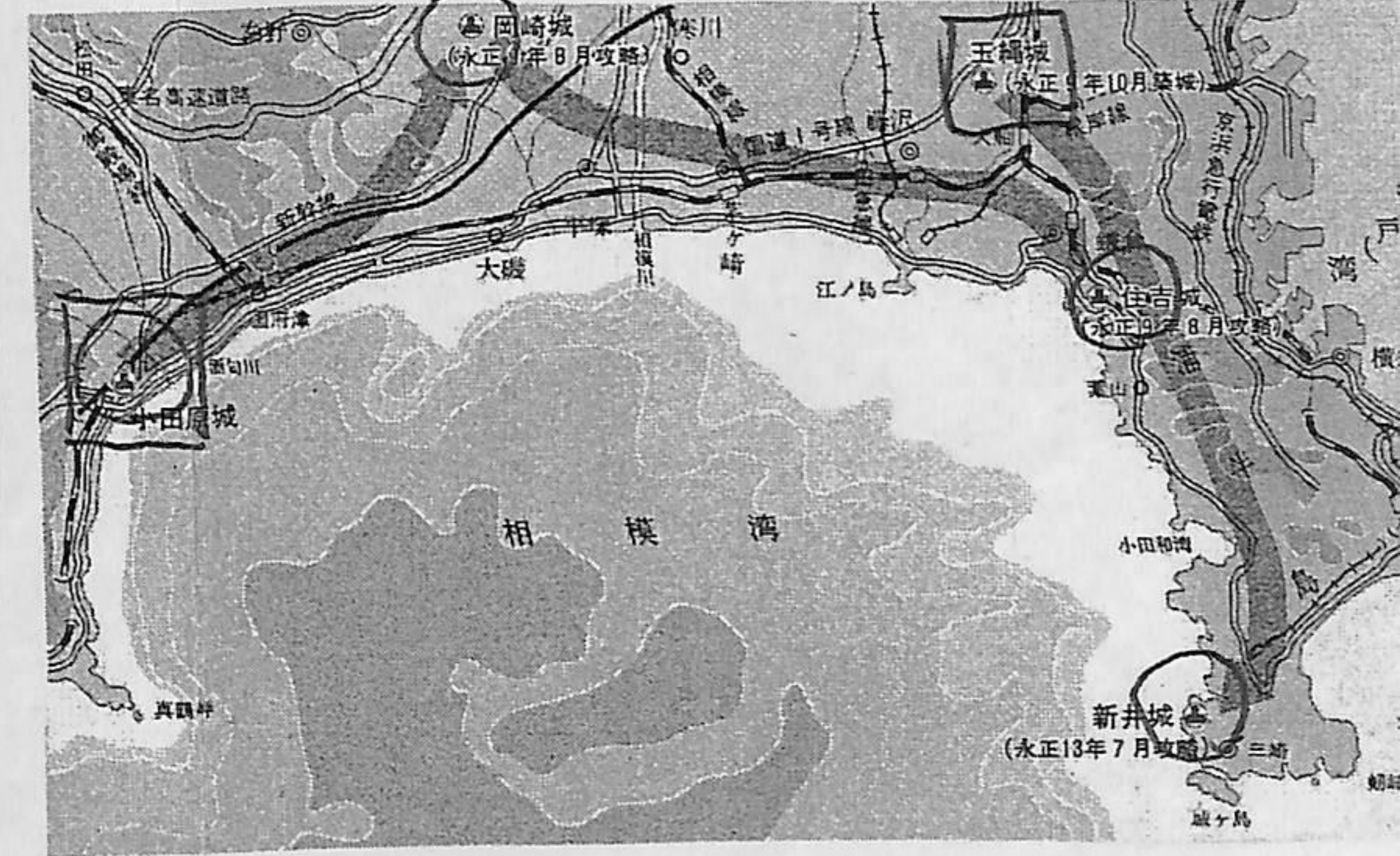
この城、南、西、北は入り海、白波を立て岸をあらひ、山高く巖(いわ)けんそにして  
 獣もかけりがたし、城の広さは30町四方、東一方わずか20間程陸につづき、  
 これに堀を掘り門ひとつ立ておきぬれば100旗向かうといふとも力攻めにはなりがたし  
 ただこれ島城なり(北条五代記)

「運すでに尽きぬる上はたとへ落ち行きたりとも微運のわれら、なにほどか逃げべき、  
 犬死せんより命の限りの戦して弓矢の義をもつばらにすべし。  
 運の通塞(つうそく)も軍の吉凶もいふべきところにあらず、一足も引くまじく(北条記)

## 北条早雲の大軍を3年間持ちこらえた三浦一族滅亡の海城

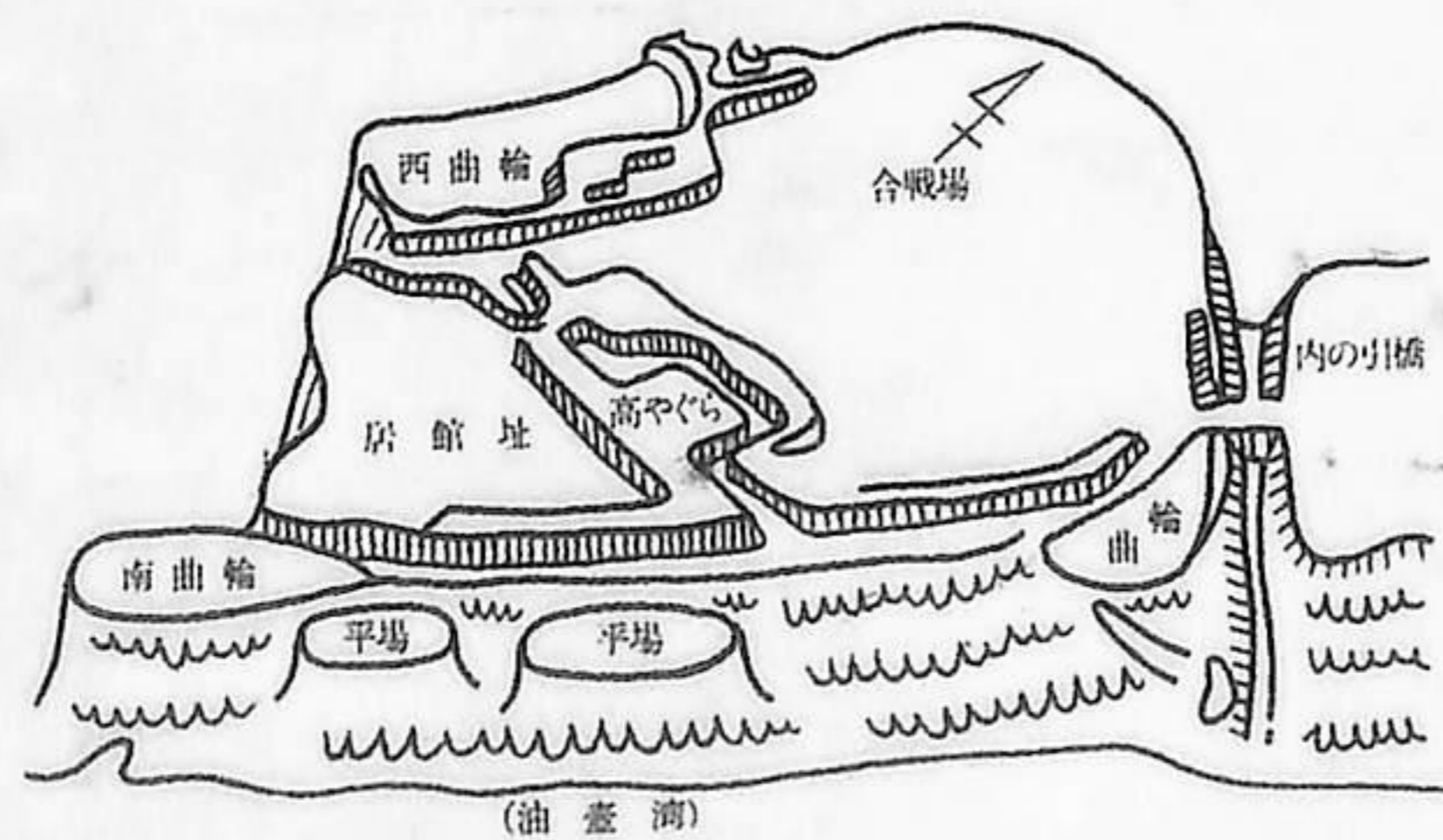


左右に天然の深い堀があり、  
 早雲の快進撃もここで阻止され、  
 4年に及ぶ籠城戦が始まった。  
 ●新井城大手口方面から油壺方面を望む。



←油壺

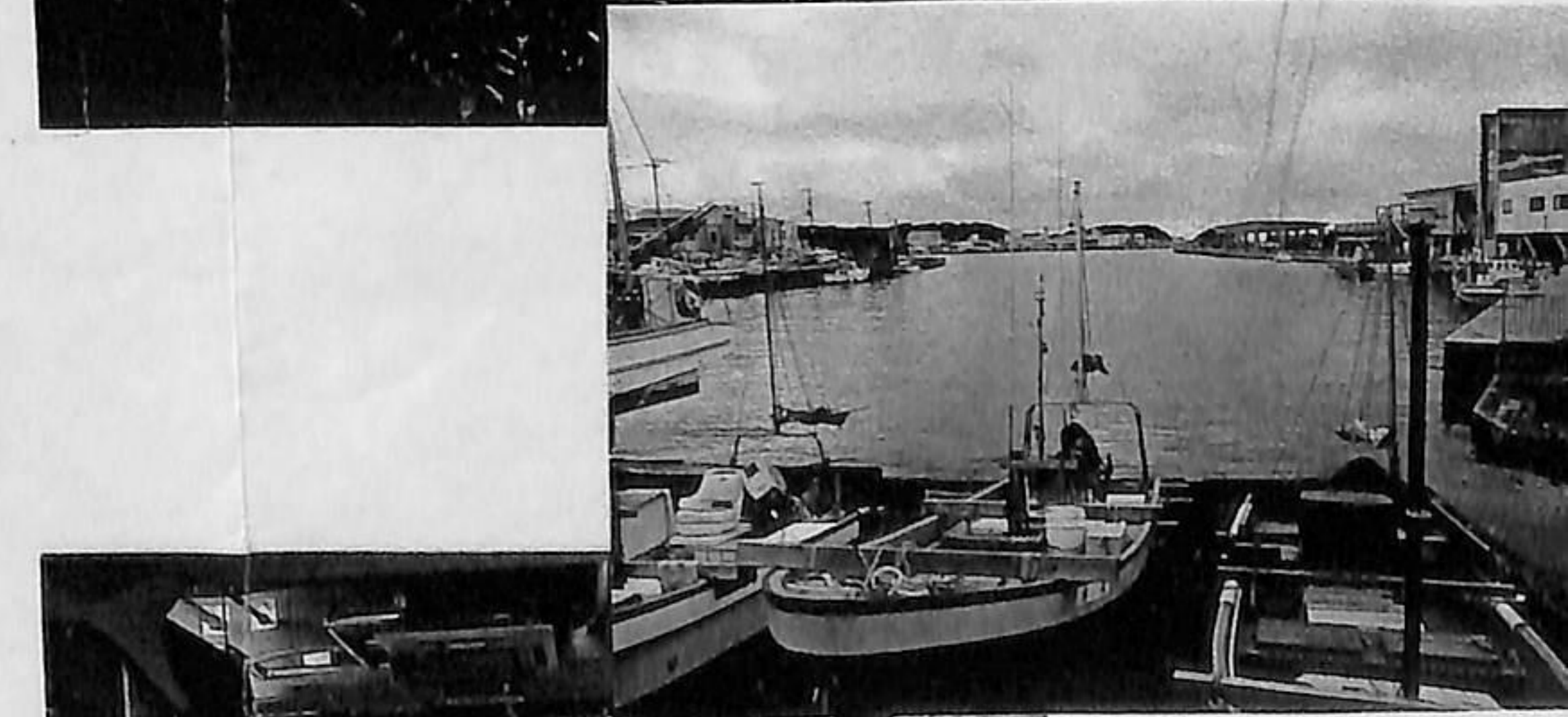
縄張り=平山城(丘城)、海城(海賊城)  
 現存状態=土塁、空堀、堀切、船溜り



うつものも討たれる者もかわらけよ  
 ぐだけて後はもとのつちくれ 三浦義同辞世の歌

### 本日のタイムスケジュール

- 10時00分 三崎口駅集合
- 10時04分 駅前①番バス停から京急バス「油壺」行き乗車
- 10時20分 終点降車、開会式  
新井城見学、昼食
- 13時10分 京急バス城ヶ島行き乗車、「三崎東岡」降車  
三崎城見学、三崎魚港見学

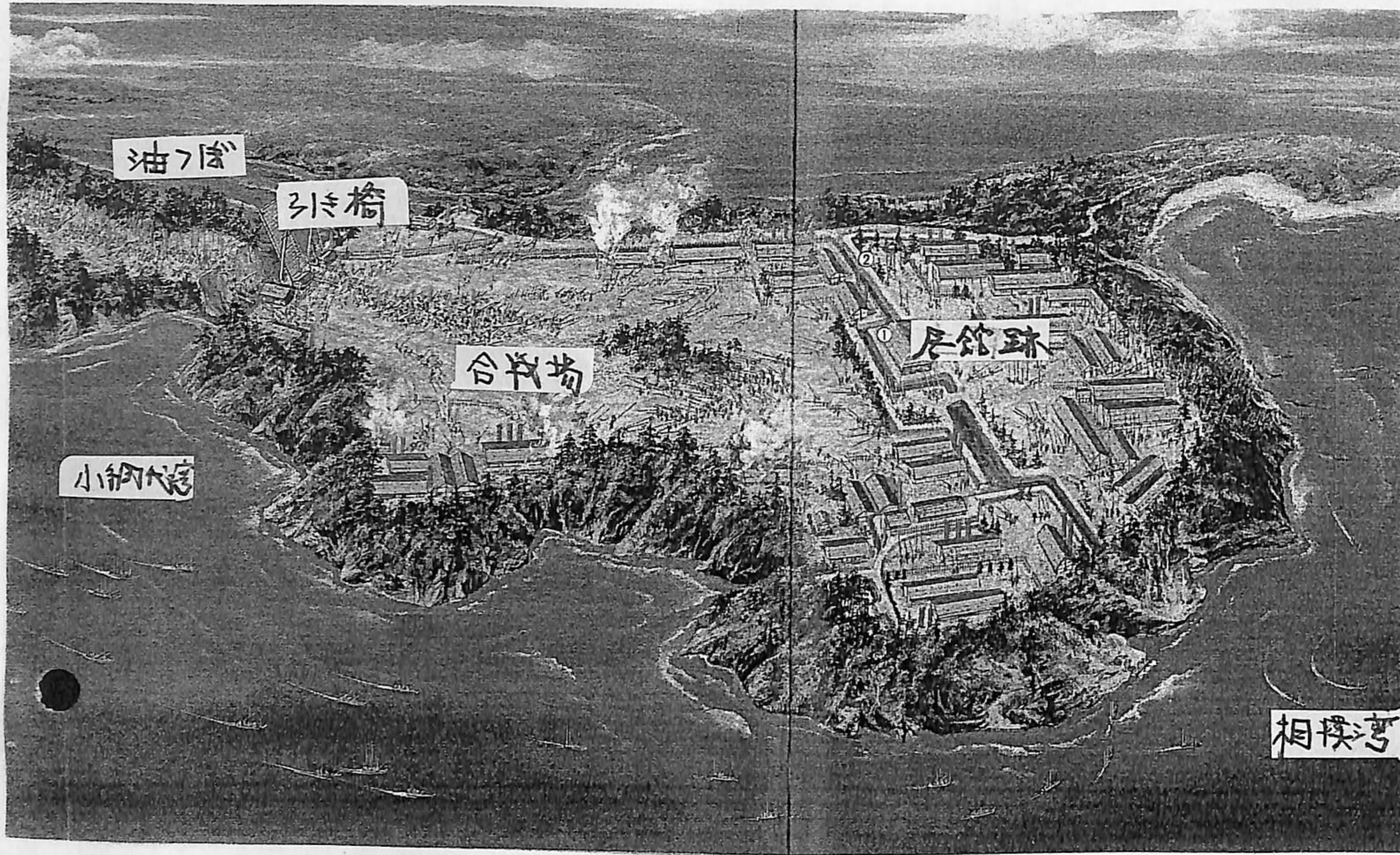


三崎港



←三崎魚港

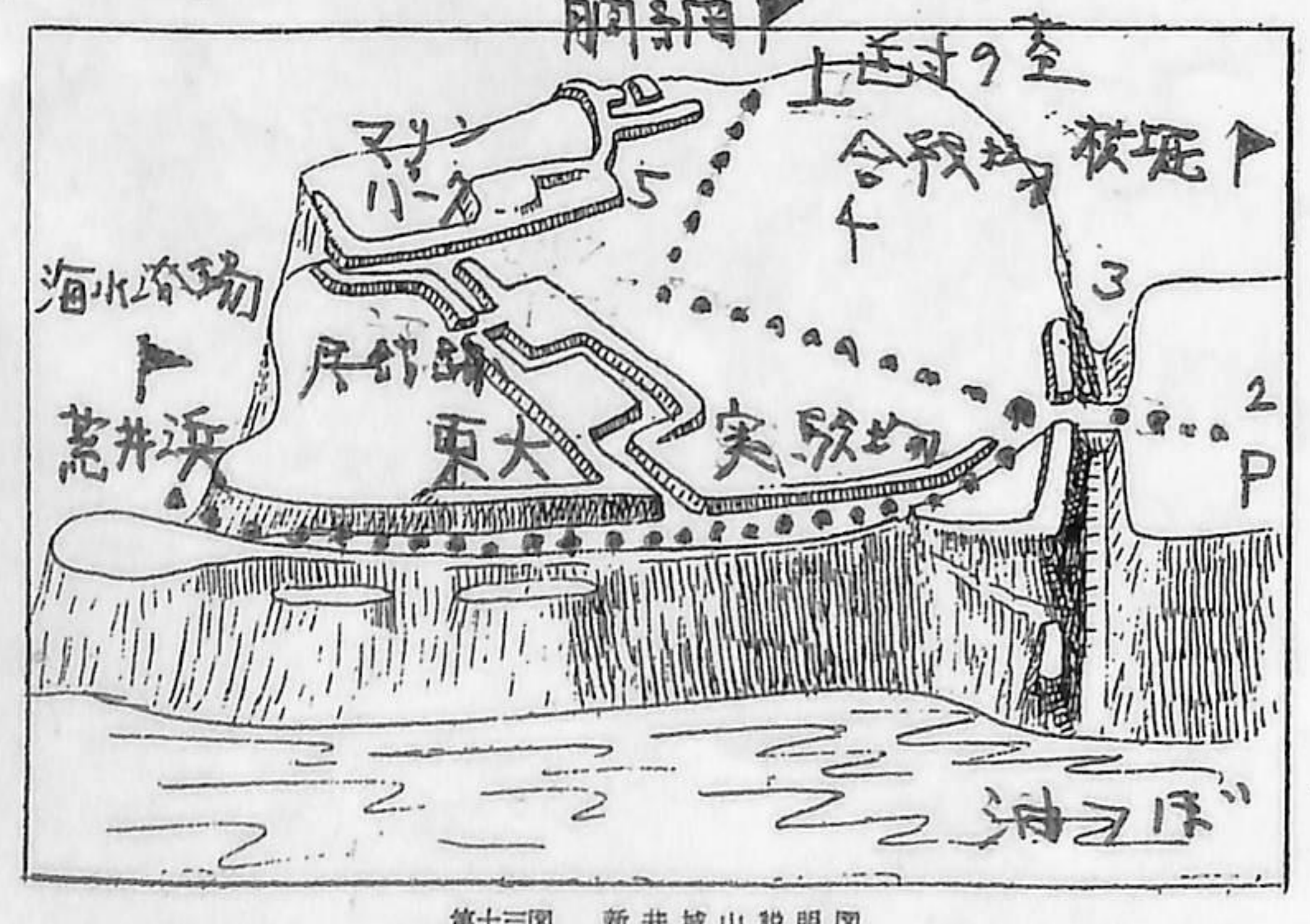




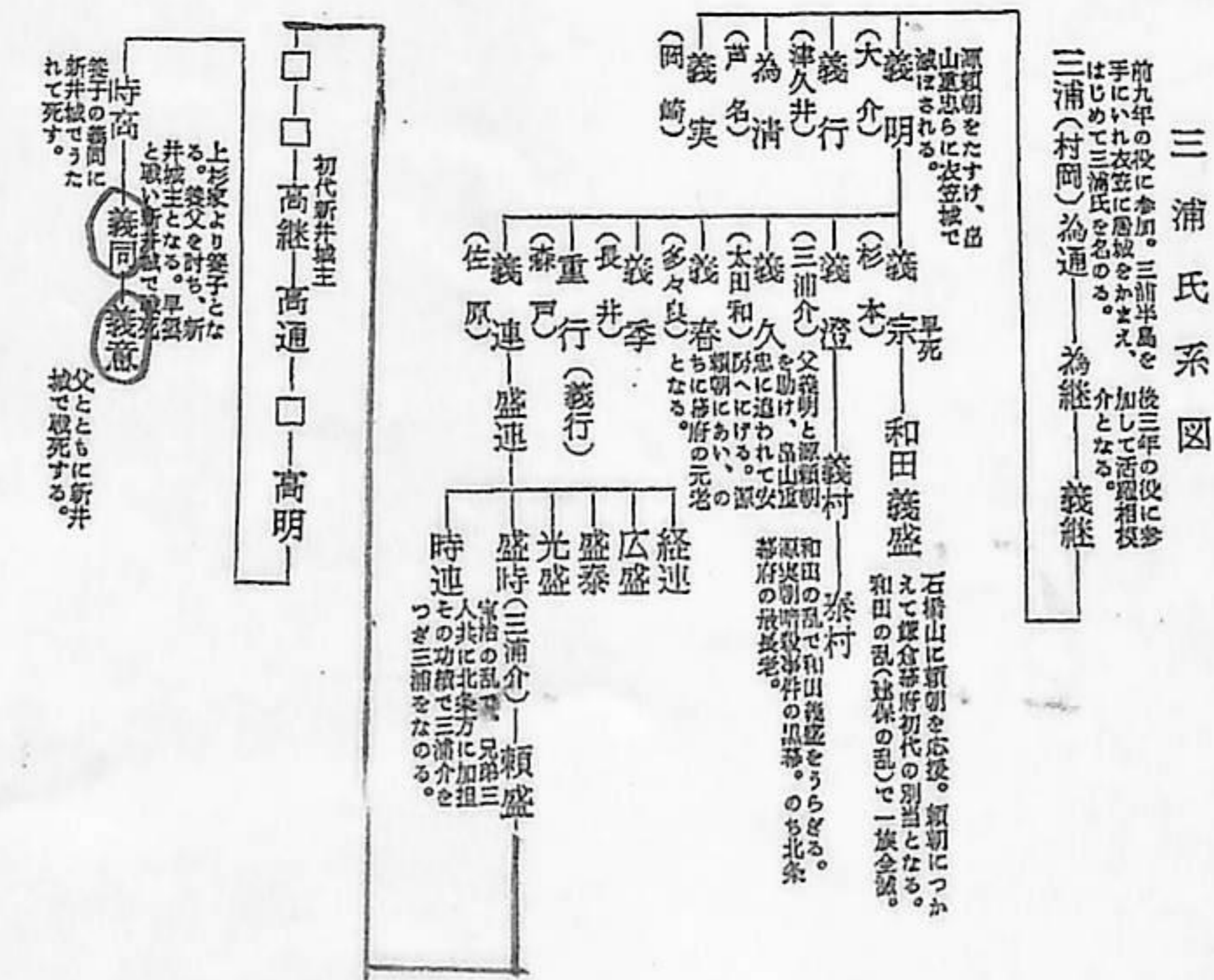
1) はじめに新井城

観光客で賑わう「油壺マリンパーク」、その昔、この地が凄惨な死闘を繰り広げた三浦一族最後の地であったことは意外と知られていない。

新井城の築城年代は鎌倉時代後期とされるが明らかでない。城主三浦氏は平安時代以来三浦半島に君臨、源頼朝の鎌倉幕府創設に貢献した三浦義明に始まる。三浦氏は扇谷上杉氏とともに相模守護職を勤めた。古河公方による「関東の動乱」が始まると三浦氏は上杉氏と結び、養嗣子に迎えたのが義同であった。義同は相模守護として平塚の岡崎城にいたが、永正9年、伊勢宗瑞(新九郎、北条早雲)に攻められ、大庭城に逃れ、翌年鎌倉住吉城、ついで新井城に籠城した。早雲は向城として玉縄城を築いて長期戦に備え、4年後に義同、義意父子の守る新井城を攻略、城兵は最後まで奮戦したが敗れ、多くが海へ身を投げて三浦氏は滅亡した。



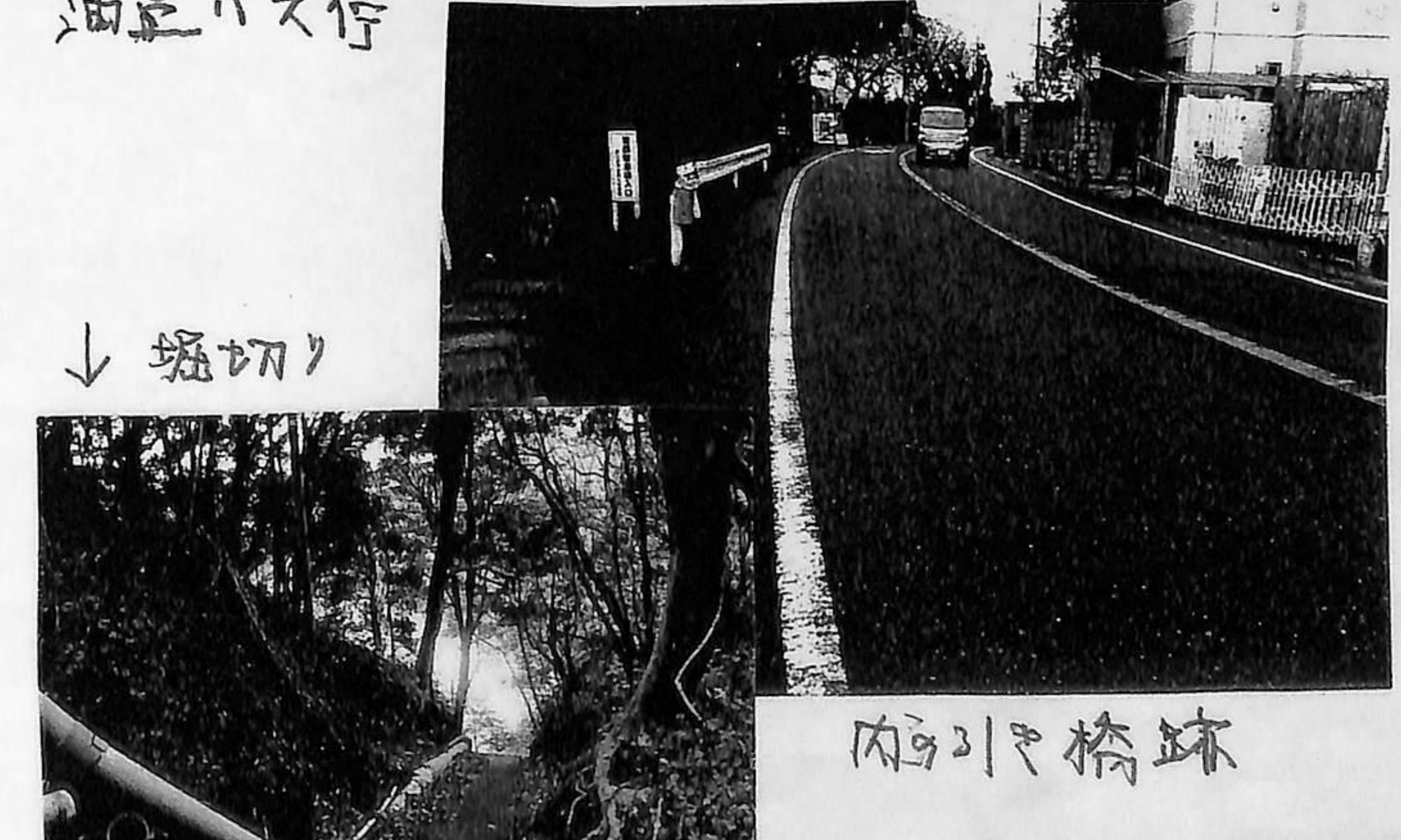
第十三図 新井城山説明図



油壺バス停



マリンパーク



堀切り

内引き橋跡

2) 油壺バス駐車場からスタート

①バス途中、油壺3km手前に引き橋=新井城大手門。広い意味での新井城がここから始まる。深い谷地は堀切に相当、ここに引き橋をかけ、防御ラインとした。最初の戦いで早雲軍はこの橋で立ち往生、3年間におよぶ籠城戦の幕開けとなった。

②駐車場は主郭直前の平場、近世の3の丸に相当か。開会式と概要説明の後、本丸をめざす。途中、木影から油壺を垣間見る。

3) 「堀切」と「内の引き橋跡」

①堀切=郭や峰続きを遮断するため掘り切ること。堅堀につなぐことで兵の横移動を止める。およそ幅11m、深さ8m、左右の山腹を掘り切って、船溜りへの堀底道を兼ねる。途中で平場(腰郭)と土塁、堅堀を越える敵に備えている。

②いまはコンクリート舗装された道路中央に内の引き橋。緊急時は橋を引いて前進を阻む。城側に土塁と門を構える、新井城最後の防御ライン。

4) 三浦氏が最後の決戦を挑んだ「合戦場」跡

①主郭部は人工的に削平されており、大きく陸側の合戦場と海先端側の居館周辺に分けられる。

②現在駐車場などになっている部分は「合戦場」という。通常の「2の丸千人溜り」に相当。北条軍は引き橋を越えて主郭部に突入、最後の決戦場となった。

5) 京急油壺マリンパークはただ通過するだけ

①水族館を中心とした観光施設、大回遊水槽での餌付けや魚の実演ショーなどが人気をよんでいる。今日は立ち入らず周辺を迂回する。

「此城の有様、周囲三十余丁を垣こめ、東一方ばかりこそ、僅に陸地に続きけれ。三方は入海の島城にて、白浪岸を洗ひ嵩高き半陽の山坂、島ならでは翔り難く、巖待ちたる雁齒の峻しき、獸と雖、通ふに疲れぬべし。たとひ百万騎の勢を以て向ふとも、力攻めにはなし難し、千駄橋と号して、大なる岩穴あり、常に米穀千駄を積み入れて、兵糧の備とす。されども城の大將連、至剛智謀ありと雖、度々の合戦に人数悉く討たれ、勢力挽みたりければさして仕出したる謀もなく、城を固く守るを能きにして、後詰の援兵を、頼むより外の事なし。城の要害厳しければ、容易く攻寄する事叶はず、北条早雲は向城を取りて、三年迄ぞ攻めにける。」

「新井の城には兵糧尽き果て、後詰の援兵をこそ頼みけれど、上杉打負けて引退くと聞えしかば城中力を落して仰天す。北条早雲既に後詰の勢を追ひ、後に恐るべき敵なし、新井の城をもみ落さんと今は心安しとして、敵方の寄手を押懸けて息をも継がせず、攻めける程に逆茂木一重は引破りたり。」

義同父子も奮戦し敵を討つこと無数であつたが遂には疲れ、自殺し城も落ちた。道守の子義意戦死後其の首はとんで小田原の松原神社の松の枝にかり眼をかつと見ひらいて、路行く人をにらんでいたので人々は恐れて其の下を通らなかつたのを久野給世寺の和尚が読経供養をしたら自ら眼をとちたと伝え、又道守討死の日、多数の者が油壺にとび込んで死んだので其の後は毎年この日風雨荒れすさび何処ともなく泣き悲しむ声がかきこえると伝え、合戦場のはらみありとして近年まで耕作は勿論牛馬をつなぐこともせられず荒れるにまかされていたと云う。



6) 相模湾を見下ろす三浦道同父子の墓

①道寸親子は北条早雲に攻められ3年もの長期にわたってよく持ちこたえたが、天正15年7月11日ついに落城した。

②父子の墓は合戦場の北端、小網代湾に面したところにある。天明2年、三浦氏子孫、海蔵寺住職らが建立、戦死者の墓は当初、合戦場の真ん中あたりに祀られていたという。

③三浦道寸義同(よしかね)の墓市史跡看板

新井城主三浦道寸義同は鎌倉以来坂東武門の名族である三浦一族最後の当主となりました。三浦一族は始祖為通にはじまり鎌倉時代には北条氏とともに幕府を二分して覇権争ったことはよく知られています。この間、和田の乱、宝治合戦などいくどか興亡を繰り返し450年間の後、奇しくも同じ北条を唱える伊勢新九郎(北条早雲)と戦い、戦国争乱の露と消えました。永正9年北条早雲は岡崎城から住吉城などに続いて三浦氏を新井城に攻めました。そして日本籠城史でもまれな凄惨な攻防は3年にわたり、永正13年7月11日義同以下城兵ことごとく決戦にのぞみここに、さしもの三浦氏はその歴史を閉じました。

7) 居館跡などは東京大学臨海実験所とマリパークに

①本丸相当部分は居館、高櫓、西曲輪で構成、土塁、空堀、平場などを垣間みる。

②東大地震研究所を取り囲む土塁、門内正面に出桁形か櫓台か、横矢掛かり

③城の南東部に米2,000俵を所蔵する「千駄やぐら」があるとされるが確認できなかった。

④新井城址市史跡看板

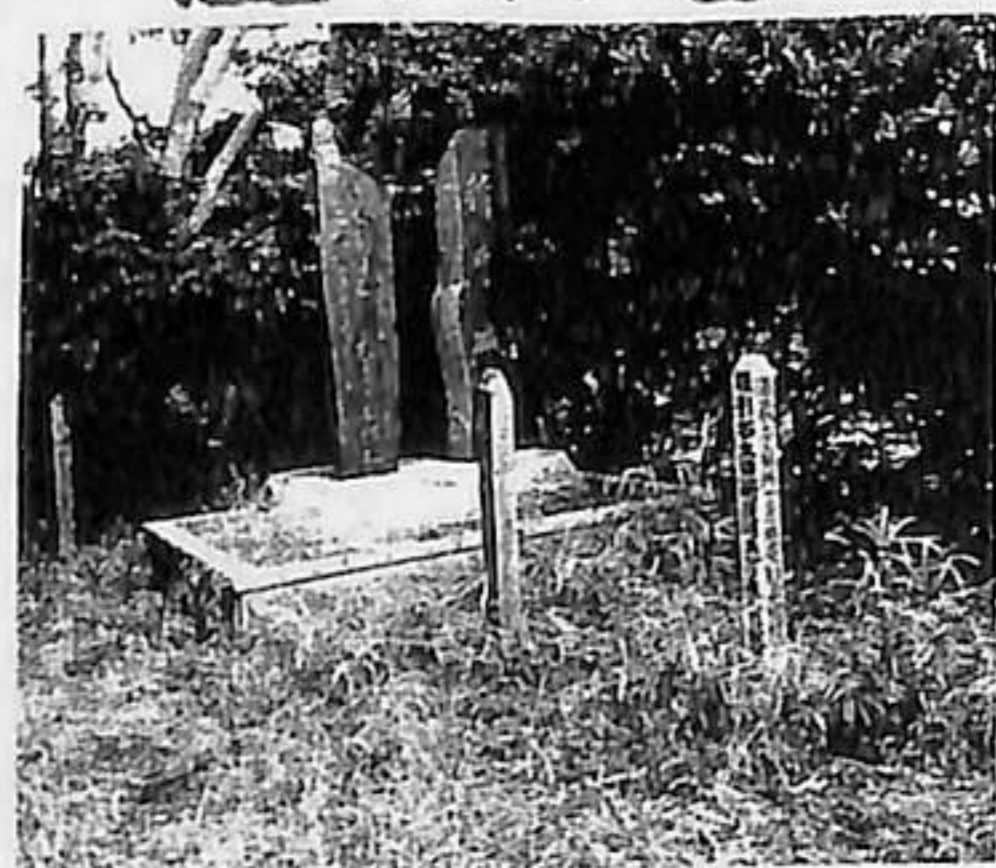
三浦一族滅亡の地、新井城は面積約128haの天険を利用した自然の要害でした。すなわち相模湾に突出したこの小半島は小網代湾と油壺湾にはさまれて、3方がいずれも海で、しかも切り立った断崖であり、陸地に通ずる路は北方約3kmの大手の引き橋で、この橋を切っ



道寸の墓



墓の周辺



義同の墓



堀切り



居館跡の土塁空堀



東大研究所正面

て落とせばどこからも攻め込まれないようになっていました。引き橋はのちに地名になりましたが、ここで北条勢は橋を引かれて渡ることができず三浦勢に時を稼がれています。現在は関東大震災による隆起で往時の面影は薄らいでいますが、当時としては大軍をもってしても攻めがたく、わずかな手兵で3年間も持ちこたえたのですから三浦一族の執念もさることながら城としても優れた構えであったのでしょう。いずれにしても室町期の居館としての新井城の名残は本丸を中心にめぐらされている空堀に往時を偲ぶことができます。

8) 三浦兵士の血汐で染まった油壺

①がけ下の油壺をのぞき込む。海岸線は出入りの激しいリアス式海岸で絶壁、厳しい天然の要害を実感する。湾内は油を流したように波静か。箱庭のように整った景観は「かながわの景観50選」の1つで、磯遊びやヨットのレジャーランドとして賑わっている。

②新井城時代、三崎港とともに三浦軍氏水軍本拠、船溜り跡。

③壺湾市史跡看板

油壺の名のいわれは永正13年、新井城を最後の居城にした三浦一族が北条早雲の大軍を相手に3年間にわたって奮戦しましたが、空しくついに全滅し、一族の将三浦道寸義同をはじめその子荒次郎義意は自刃、ほかの将兵も討ち死に、または油壺湾へ投身したと伝えられそのため湾一面が血汐で染まり、まるで油をながしたような状態になったので後世油壺といわれるようになりました。

9) 新井浜海岸で昼食休憩

①海城(海賊城) = 水軍の城、軍港。将士を海賊衆、船手衆と呼んだ。三浦水軍の規模は不詳、上総、安房の里見水軍には打ち負けることが多かったが、のちに同盟関係を結んだ。

②三浦氏滅亡後、新井城、三崎城の軍港は北条氏に引き継がれた。

③昼食休憩 およそ45分の予定、時分解散地集合

以上



油壺



油壺碑

